



よろい かぶと ぶ し は すがた  
**鎧と兜 武士の晴れ姿**

おおよろい どうせいぐそく  
**大鎧と当世具足**

日本の鎧・兜（甲冑）は古墳からの発掘例があるように、古代からあり、時代や戦闘方法の変化とともに変化していきました。

「大鎧」は今から約800年前の平安時代の終わりから室町時代にかけて、主流だった鎧・兜です。この頃は主に弓矢を使って戦いました。鎧・兜は赤やさまざまな色系で威され、美しく、気品高く、豪華でした。大将クラスの鎧・兜は約30kgから40kgありました。

しかし、戦国時代になると、鉄砲や槍を用いた集団戦へと戦闘方法が変わり、集団戦に便利のように軽くて、小型な「胴丸」が主流になりました。武将たちは胴丸を基本に、さまざまな工夫を凝らした個性あふれる当世具足を身につけるようになりました。「当世」とは今風という意味で、「当世具足」は新しい形式の鎧・兜をいいます。

くわがた  
**鍬形**

おおそで  
**大袖**

せんたん  
**梅檀**

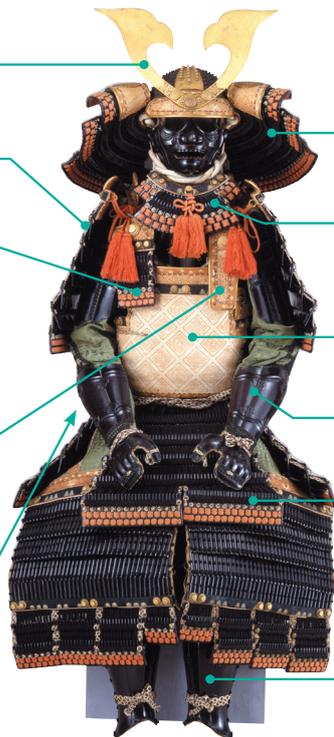
矢を引いた時の右胸のすき間を守る。

きゅうび  
**鳩尾**

梅檀と同じく、左胸のすき間を守る。

わいだて  
**脇楯**

大鎧の胴の右に着け、右脇を守る。大鎧のみ。



くろぬりかちいとおしよろい  
**[黒塗勝系威鎧]**

かぶと  
**兜**

のどわ  
**喉輪**

どう  
**胴**

こて  
**籠手**

くさすり  
**草摺**

すねあて  
**臑当**



くまげうえくろいとおしぐ  
**[熊毛植黒系威具]**

たてもの  
**立物**  
 わきたて  
 (脇立)

そで  
**袖**

わいだて  
**脇楯**



おおよろい  
**大鎧**

胴は前と左脇と後ろがひとつ続きでコの字型です。右脇に「脇楯」をつけます。



どうせいぐそく  
**当世具足**

二枚胴の場合は、前胴と後胴の二枚で出来ています。

てんじしつ  
展示室でじっくり見てみよう!

かぶと  
兜

あたまぜんたい まも  
頭全体を守ります。

もん たい  
問題 1

はち ぶら  
鉢の部分は  
何でできているかな?

そで  
袖

てき やり こうげき おおそで う  
敵の矢や槍の攻撃を大袖で受  
けて、身を守ります。

もん たい  
問題 2

そで なんだん おどし  
袖は何段、威して出来てい  
るかな?

こて  
籠手

てき かな うで まち  
敵の刀から腕を守ります。

はいだて  
佩楯

くさすり した ちもち まも  
草摺の下にはき、ももを守ります。  
(当世貞足のみ)

もん たい  
問題 5

この鎧・兜のどこが  
カッコイイ?  
気づいたことを教えてね。

くわがた  
鍬形

かぶと かざ  
兜の飾りのひとつです。  
(今回は展示されていません)



しころ  
鍬

かぶと いちぶ こうとうぶ くび  
兜の一部で、後頭部から首の  
部分を守ります。

どう  
胴

むね なか まち  
胸やお腹のまわりを守ります。

もん たい  
問題 3

しろいと おどし どう  
白糸で威されている胴は  
何でできているかな?

くさすり  
草摺

こし  
腰のまわりを守ります。

もん たい  
問題 4

くさすり なんまい  
草摺は何枚あるかな?  
後ろも見て、かぞえてね。

すねあて  
脛当

あし まも  
足のすねを守ります。

